

「標準麻酔科学」第2版

京都府立医科大学名誉教授・麻酔科学 宮崎 正夫
九州大学名誉教授・麻酔科学 吉武 潤一 編集
順天堂大学名誉教授・麻酔科学 茅 稽二

九州大学医学部麻酔・蘇生学教室

高 橋 成 輔

医学部学生および研修医が現代麻酔科学を学ぼうと利用する教科書として、この本は優れている。第1版の序において編者の宮崎正夫氏が述べておられるように、近年わが国においても麻酔科学は広大な医学・医療の分野に展開しており、中心となる麻酔学のみならず、集中治療医学、蘇生学、救急医学、疼痛治療学、そしてプライマリケアやターミナルケアにまでその領域は及んでいる。

本書はこれらの領域をカバーするために、まず生体機能に関する基礎的考察を呼吸・循環・体液の主要機構について行い、次に麻酔と術前・術後の管理の基本的な方法、第3になぜ麻酔がかかるのか、そして麻酔にはどんな方法があるかについて述べている。これは医師国家試験の基礎的理解事項として必要なものである。第4編は各科麻酔の特徴について、学生はもちろんのこと、麻酔科入局当初の研修医やローテイトしてくる研修医が、まずいろいろな麻酔を実施する際に必要な手引きとなる部分である。最後の部分には麻酔以外の活躍の場で行う関連業務の要点

が述べられている。学生諸君が医学部卒業後いかなる臨床分野に進まれるとしても、この編に述べられている救急・蘇生・中毒治療法および疼痛管理やショックの治療などは、医師の基本的素養として最低限備えておくべきものであり、是非とも理解して身に付けてほしいものである。更に本書のブルー頁は、特に患者管理に必要な生体機能検査項目のまとめとして、手術室、ICU、CCU、そして病棟で利用するデータを整理して示してあるので、医師国家試験、麻酔指導医認定試験および各科専門医試験を受ける際のメモとして活用すれば有用であろう。

1987年に本書の初版が発行され6年が経過し、増刷を重ねて今日に至っているが、今回編者ならびに各執筆の方々の積極的な意志により、この分野における日進月歩の新知見を加えて第2版が完成したことは利用するものにとって大変有り難いことである。

本書の題名が標準教科書シリーズの1つとして「標準麻酔科学」となっているところにも大きな意味があ

る。まず“教科書”という以上は、その中で取り扱う分野を読者に正しく理解させることができるものでなければならない。更に“標準”なる冠がつけば、まさにその時代の水準に見合った“麻酔科学”はこれであるという意志を表現していることになり、その責任は大きい。科学を応用した現代医療の手段の多くは患者生体にいくばくかの侵襲を与えることになり、その侵襲と生体との調和の上に成り立っている。つまり“仕掛ける”ことを前提としている以上“安全かつ高度で誰もが納得できる医療”でなければならない。医療現場で患者に不測の事態が生じ、医事紛争に発展する場合、そこで必ず問われるのは、その医療行為がその時代の医療水準に達しているか否かである。このようなとき、“標準教科書”に記述されている内容は重大なものとして評価される。

● B5 364頁 図163 1993 定価
5,356円(税込) ㊦400

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)